

さかえ つながる 通信

<特集号>

<編集・発行年月日>

平成26年3月27日

栄区役所福祉保健課

栄区社会福祉協議会

『演劇』と『シンポジウム』の融合による

「さかえ・つながるフォーラム」開催レポート!!

栄区は市内で最も高齢化率が高く、福祉・保健に関する課題がますます多様化しており、公的な福祉サービスだけでは必ずしも解決できないことも多くあります。

また、昨年10月には、セーフコミュニティ都市としてWHO協働センターより国内7番目の認証を受け、「安全」「安心」のまちづくりに向けた地域の方による様々な「支えあい」の活動が活発に行われることがますます期待されます。

そこで地域福祉の推進には欠かせない、地域での「つながり」と「支えあい」の大切さをさらに多くの方々に感じてもらえるよう、栄区役所と栄区社会福祉協議会では、住民の方のご協力を得て、『演劇』と『シンポジウム』を融合した新たな試み「さかえ・つながるフォーラム」を2月23日（日）栄公会堂で開催しました。



演劇『独りから一人へ』



シンポジウム「私が地域活動を始めた理由(わけ)」



公募で集まった中学生から80代の市民が熱演

身近な地域を題材に、「独居老人」「いじめ」「認知症」「買い物不便」といった様々な課題を抱えた住民たちが、地域社会を舞台に交差し、震災を経てつながりを強める様子が描かれた演劇を上演しました。

台本・演出は自身も栄区の子育て支援などに携わる活動者である木暮寿子氏。出演は公募により集まった一般市民の方々を中心に、試験や部活と両立しながら参加した中高生や、現役会社員、保育士、障害当事者、そして劇中にも登場した自主販売組織を実際に運営する元・民生委員の方など、バラエティ豊かな面々。みなさん日頃の活動も忙しい中、4か月に及ぶ稽古を経て本番に臨みました。

劇中の課題や取組には共感を呼ぶものも多く、また、震災を乗り越えた住民達が日の出を眺めながら手を取り合うラストシーンでは、感動して涙を流される方もいらっしゃいました。

バラエティー豊かな活動者の方々からの声

地域活動を既にされている方にとっても、これから始めようと考えられている方にとっても、地域活動をより身近に感じていただけるように、栄区内で地域活動に携わっている方から、活動を始めた「きっかけ」や「やりがい」を聞きました。

進行は、栄区地域福祉保健計画推進にも学識経験者として関わっている豊田宗裕氏。シンポジストには現役会社員をしながら自治会長を務めている井尾博文氏、自身の失明をきっかけに福祉活動に参加した三嶋伸昭氏、大学生ボランティアの金田伸也氏、民生委員のほか趣味の域を超えて様々な活動をしている本田桂子氏、そして、演劇にも出演し、普段は『お互いさまねっと いこい』のスタッフとして活動されている伊藤愛子氏。多方面からお集まりいただいた活動者の方々から様々なお考えやご意見を頂くことができました。

演劇の脚本・演出をされた木暮寿子氏と、

シンポジウムの進行をされた豊田宗裕氏のお二人から感想をいただきました！

役者陣はフィクションであることを忘れて
我がことのように演じていました。

この劇のために集まってきたメンバーが全員顔を
そろえることはなかなかできません。メンバー自
身もそれぞれの地域の中で活動をしているからで
す。そんな忙しい合間をぬって稽古に励みました。
今回の演劇は地域の中での様々な出来事や課題を
演劇で表現(再現)して観ている人が気づいたり、



木暮 寿子 氏

考えたりするきっかけになったら
いいと考えて脚本を書きました。敢
えて結論やテーマ性を控えた作品
作りにはいつもの芝居作りとは違
う難しさもありましたが、狙い通り
になったのではないのでしょうか。

いつかこのフォーラムをきっかけに地域活動
を始めた人に会えることを期待しています。

先日、ある会議で長く地域活動に携わっている方から、「若い人が地域の活動に参加したり、意見を言える仕組みが必要」とのご意見がありました。演劇出演者の応募に申し込んだ方が友人を連れてきたり、稽古を通じて身近な地域のことを考えたりする機会があったと聞きました。シンポジウムにも大学



とよだ むねひろ 豊田 宗裕 氏

生が登壇して地域活動のことを話
してくれました。こういった試みなら若い人や普段活動をしていない人でも参加しやすいですし、他区では見られない新しい企画で大成功だったのではないのでしょうか。



・・・出演者の感想・・・

地域でこういう問題があるということに気が付いた。この演劇の練習に参加するようになってから、近所の人にあいさつをするように心がけるようになった。これからはいろんなことに積極的になろうと思う。

今までは近所の人とあまり関わりがなかったが、何かあったときのために、普段からコミュニケーションをとっておく必要があると思った。

これまでの稽古を通して、3世代一緒に参加し楽しむことができた。これまでいろんなイベントに出ているが、このようなものは初めてだった。

今まで近所の人との関わりは回覧板を回すくらいだった。これからは、まず挨拶をして、大変な時は声をかけるようにしたい。

違う世代の人がみんなで一緒に、この劇を作り上げることができた。ここに参加したことのできた輪が、この先も広がっていくといい。

各地区の活動の様子をパネル展示

地区別計画に基づく身近な地域での支えあいの活動が「さかえ・つながるプラン」を支えています。当日、ロビーに各地区(豊田、笠間、小菅ヶ谷、本郷中央、本郷第三、上郷西、上郷東)の活動の様子を紹介したパネルを展示しました。演劇とシンポジウムでは伝えきれなかった各地区の活動が紹介され、来場された方々はお住まいの地区で行われている活動紹介を真剣な様子でご覧になっていました。



あとがき(「ご来場者アンケート」の声)

「素晴らしい劇でした(40代女性)」、「実社会と重なる内容でとてもよかった(50代女性)」、「自分から遠い物だと感じていた“地域”を自分のこととして考えたいと思いました(30代女性)」、「仕事は忙しいけど、少しでも地域に目を向けてみようと思いました(60代女性)」、「演劇と活動されている方の言葉で大変分かりやすかった(50代女性)」、「今後もこのような企画をやって欲しい(70代男性)」、「二部構成のおかげで最後まで飽きずに観られた(40代男性)」、「身近に活動している方のお話が聞けて良かった(20代男性)」、「地域の人たちともっと仲良くしたい(10代女性)」、「様々な年代・立場の人がシンポジストとして登壇していてよかった(60代女性)」

<発行元>

栄区役所福祉保健課事業企画担当

電話：894-6962 / Fax：895-1759

横浜市栄区社会福祉協議会

電話：894-8521 / Fax：892-8974